

令和 6年度

事務事業評価表 (令和 5年度 の実績評価)

記入年月日
令和 6 年 4 月 15 日

事務事業名		英語検定料助成事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020101001020
						単独/補助	単独	所属課	090101
政策体系		政策体系上の位置付け						学校教育課	
総合計画の施策名		O201 学校教育の充実						課長名	
政策名		O2 生きがいを育む学びのまちづくり						グループ	
施策名		O1 学校教育の充実						担当者名	
手段名		O1 ①教育内容の充実							
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	10	01	02	02	00	事務局事業		
法令根拠		桜川市英語検定料助成金交付要領				単年度繰返し (令和元年度~)			
						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)
	<ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定「英語検定」を受検する小学校、中学校、義務教育学校等に在籍する児童生徒の保護者に対し英語検定料の受検にかかる保護者負担を軽減するため予算の範囲内で、桜川市英語検定助成金を交付する事業。 ●児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的に令和元年度から実施 (令和2年度から、小学校等で英語が教科化となる。) ・助成対象者は、市内の小中学校又は義務教育学校に在籍する児童生徒
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の英語担当者へ趣旨及び助成金交付手順の説明会の開催。 ・教育委員会は、各学校を通過して保護者への周知を行う。(通知等) ・市ホームページへの掲載 桜川市英語検定料助成金交付手順 (市内の学校で受験する場合) (個人申請の場合) の対応の手順に沿って進める。

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・英語検定受験者のとりまとめ ・検定料の支払い ・検定結果の把握	市内英語検定準会場設置校数	校	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00
	助成金交付申請者数	人	293.00	327.00	350.00	350.00	350.00
		人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
※令和5年度より対象者変更。 市内小・中・義務教育学校及び市内在住の全児童・生徒	小学校の児童数	人	1,241.00	1,214.00	1,125.00	905.00	905.00
	中学校の生徒数	人	698.00	672.00	658.00	551.00	551.00
	義務教育学校の児童生徒数		638.00	607.00	582.00	835.00	835.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
中学校卒業段階で英検3級以上を所得する	受験者数 (小・中・義の合計)	人	475.00	390.00	400.00	400.00	400.00
	助成金交付総額	千円	620.00	601.00	886.00	886.00	886.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費内訳	単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	期間限定 総投入量
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	
事業費	国庫支出金	千円	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	使用料・手数料	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	620	601	886			
	事業費計 (A)	千円	620	601	886			
正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人				

05年度事業費 実績 (千円)

06年度事業費 予算 (千円)

事業費の内訳	05年度実績	06年度予算
18 負担金補助及び交付金	601	886
合計	601	886

(4) 当該年度の実施内容

※年度ごとに事業内容を記入する	06年度の事業内容	07年度の事業内容	08年度の事業内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の英語担当者へ趣旨及び助成金交付手順の説明会の開催。 ・教育委員会は、各学校を通過して保護者への周知を行う。(通知等) ・市ホームページへの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の英語担当者へ趣旨及び助成金交付手順の説明会の開催。 ・教育委員会は、各学校を通過して保護者への周知を行う。(通知等) ・市ホームページへの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の英語担当者へ趣旨及び助成金交付手順の説明会の開催。 ・教育委員会は、各学校を通過して保護者への周知を行う。(通知等) ・市ホームページへの掲載

事務事業名	英語検定料助成事業	事務事業No.	20101001020	所属課	学校教育課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
令和2年度から、小学校等で英語が教科化となることをきっかけに、児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的として、令和元年度から実施する。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
現時点では特にない。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 市内の児童生徒の英語力向上のため、この事業を実施することは、市の施策体系である学校教育の充実・教育内容の充実に結びつく。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 対象は市内の児童生徒であり、その児童生徒の英語力向上のためであり、グローバルな人材を育成することになるので、市が行うことは妥当である。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 受験申込の時期に各学校へ受験案内の配布、事業内容を市HPへ掲載している。
公平性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 令和3年度より受験料が値上がりするため、廃止した際に保護者の負担がさらに増えることとなる。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 特に類似事業はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 令和3年度より受験料が値上がりしているため、事業費の削減は難しい。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内の全児童生徒が対象であるため、受益者負担は公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																											
①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	②有効性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	⇨	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業段階で英検3級以上の取得を基本に、児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的として、令和元年度から実施を始めた。 ・市内の中学校及び義務教育学校は、学校を経由して受験料の半分を負担してもらっているが、学校経由での金銭のやり取りや、生徒の受験に対する方法等については、今後の課題となってくる。 																										
③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	④公平性 ■ 適切 □ 見直し余地あり																												
(3) 今後の事業の方向性																													
<input type="checkbox"/> 終了 ■ 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 □ 休止	<input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持			(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる	<input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下								
		コスト																											
		削減	維持	増加																									
成果	向上																												
	維持																												
低下																													
(6) 事務事業優先度評価結果		①																											

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認